



令和7年4月24日

報道機関各位

神奈川県立病院機構 神奈川県がんセンター 臨床研究所
がん予防・情報学部
横浜市医師会

肺がんの種類の変化に伴う胸部 X 線検査による 早期発見能力の再検討

神奈川県立がんセンター臨床研究所がん予防・情報学部（部長 成松宏人）と横浜市医師会（会長 戸塚武和）による共同研究の成果「Assessing the performance of chest X-ray screening in detecting early-stage lung cancer in the general population」が、国際的な学術誌「International Journal of Cancer」に掲載されましたので、お知らせいたします。

1. 研究の背景・目的

近年、日本人の喫煙率低下に伴い、肺がんの種類も変化してきています。特に、喫煙との関連が強い扁平上皮がんが減少し、非喫煙者にも発症する腺がんが増加傾向にあります。胸部 X 線検査は肺がん検診で広く行われてきました。しかし、肺がんの種類における変化に伴い、胸部 X 線検査による各肺がんの早期発見能力について、再度詳細な検討が求められていました。

本研究では、16 万人以上の横浜市がん検診の検診データと神奈川県地域がん登録*のデータを用いて、胸部 X 線検査による早期肺がんの発見能力について詳しく分析を行いました。

2. 主な研究結果

胸部 X 線検査は早期肺がんの約 74% (73.6%) を発見できることがわかりました。がんでない方をがんでないと正しく判定する精度は約 94% (94.1%) と高いことが確認されました。また、早期肺扁平上皮がんの発見率 [70.4% (95% CI、67.3–86.0)] より早期肺腺がんの発見率 [76.0% (95% CI、68.3–82.7)] の方がやや高い傾向にありました。

3. 今回の成果の意義

今回の研究により、胸部 X 線検査は一般集団における検診に有用なツールであることが確認されました。ただし、約 26% の早期肺がんは検診では発見が難しいため、喫煙歴などによりリスクが高い個人は、特に定期的な検診受診が重要です。また、症状がある人は、より詳細な検査の選択肢についても医師と相談することが推奨されます。

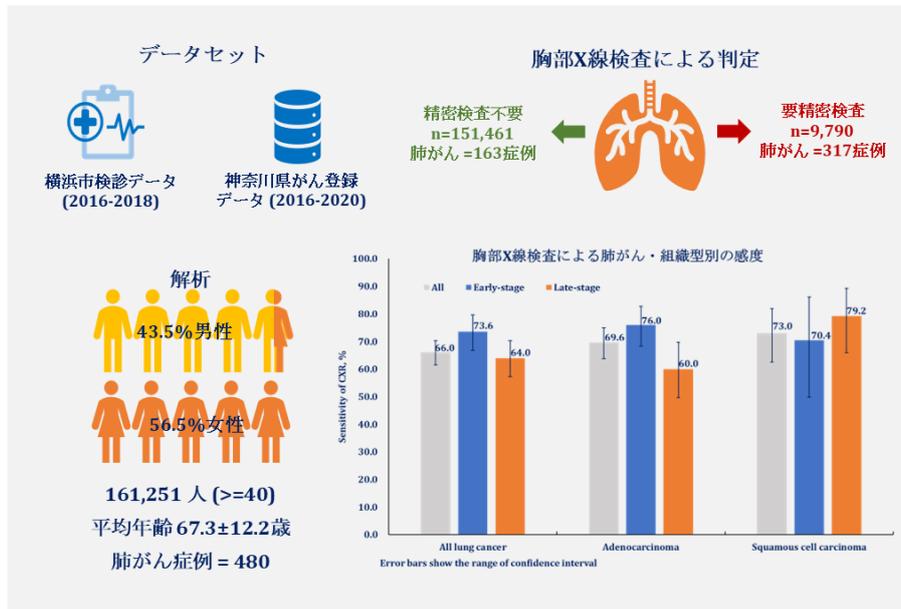


図1：研究のグラフィカル・アブストラクト

*神奈川県地域がん登録は全国がん登録と並行して神奈川県が独自で行っているがん登録事業。30年以上にわたるデータの蓄積と詳細のデータ項目が特徴。今回の研究のようながん対策に資する研究や、がん検診精度管理、がん患者の予後調査といった、神奈川県民に密着したがん対策のためのデータ基盤となっています。

(論文掲載)

Chei CL, Nakamura S, Watanabe K, Mizutani T, Narimatsu H. Assessing the performance of chest x-ray screening in detecting early-stage lung cancer in the general population. Int J Cancer. 2024;1 - 13. doi:10.1002/ijc.35316

(問い合わせ先)

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立がんセンター臨床研究所
がん予防・情報学部：成松 宏人
電話：045-520-2222 (代)
E-mail: narimatsu.0750f@kanagawa-pho.jp